

「キジの卵」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

私には「いとこ」がたくさんいる。母方は5人でしつかり名前もわかるが、父方には「1ダース」ぐらいいて、正確に名前がわからない人もいる。すでに「孫」のいるいとこも多く、時の流れを感じる。



これは深谷市の父の実家での「父方のいとこ集合写真」これでも半分ぐらいしかいない。＼(o´)/をしているおバカが私で、たぶん4歳ぐらいだろう。父の実家は、豚と蚕をやっていた。いろいろな作物も作っていたので、庭に何か干してある。そのいとこの一人(写真中央のすごい服装の女の子)から、「蛇の卵！」とLINEで写真付きの「緊急メッセージ」が届いた。



畑の畔の土に半分埋まっているという。ヘビの卵はそんなにみかけるものではない。ブヨブヨしていたら、大抵はキノコ(スッポンタケ科が多い)の幼菌のことが多い。しかし硬ければ鳥の卵なので、何か棒で軽く触ってみるようお願いした。



「硬い」という。産んだ場所や、鶏卵大という情報、それに殻の模様から、キジの卵に間違いなだらう。念のために鳥類の専門家に聞いたら、やはりキジに間違いなという。4個なので、まだこのあと追加で産むだらうという回答だった。



キジのオスは鮮やかな赤い顔である。この時期、縄張りを守る為、赤くて動くものを攻撃する行動が見られる。郵便配達員が襲われることもある。赤い服を来て外に出ないように、いとこに注意しておいた。



もうすぐこんな光景が見られるだらう。キツネやカラスの被害に遭わなければよいのだが・・・